

独立行政法人国立病院機構
東近江総合医療センター

自分らしく輝き 心に届く看護

看護職員募集案内



独立行政法人国立病院機構

東近江総合医療センター

〒527-8505 滋賀県東近江市五智町255番地
TEL.0748-22-3030 FAX.0748-23-3383

詳しくはホームページをご覧ください

<https://higashiomi.hosp.go.jp>

携帯サイトはこちら



病院Instagram



病院紹介 Hospital Introduction

基本理念

質の高い医療を提供するとともに、
確かな技術と豊かな人間性を備えた医療人の育成に努め、
地域から信頼される中核病院を目指します。

基本方針

- ・地域医療機関と連携を図り、地域から求められる高い水準の医療を行います。
- ・人権を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を行います。
- ・教育研修、自己研鑽を通して、高い倫理性と技術を持った良質な医療人を育成します。
- ・職員が安心して協働できる組織風土を育て、健全な病院運営を行います。

病院概要

■ 医療法病床数 320床(一般304床・結核16床)

■ 診療科目

総合内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科、眼科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科

■ 診療機能

がん

診療各科の領域において、がんの早期発見に努め、外科療法・化学療法・放射線治療を行っています。また、滋賀県地域がん診療連携支援病院の指定を受け、病病・病診連携を始め、相談支援、研修の実施、情報の収集・提供に取り組んでいます。

呼吸器

呼吸器内科・呼吸器外科の充実により、結核拠点病院としての役割を果たすとともに、気管支鏡や局所麻酔下胸腔鏡、気管支腔内超音波断層法の検査により肺がんの診断率向上に成果をあげています。

神経難病

脳血管障害、神経難病、慢性炎症性脱髄性神経障害や糖尿病性神経障害、多発性神経炎など末梢神経障害、筋炎などの筋疾患を中心に診断・治療を行っています。また、言語聴覚士が加わり高次脳機能諸検査・言語訓練・嚥下機能評価を行っています。

救急

二次救急病院としての役割を担い、夜間・休日も含め地域住民等の急病・外傷に対応しています。当院の敷地内に整備された東近江市休日急患診療所とも連携して、ますます救急医療の充実に取り組んでいきます。

消化器・IBDセンター

胃カメラ・大腸内視鏡を始め、カプセル内視鏡とバルーン小腸内視鏡を実施し、消化管全般に渡り診断・治療を行っています。また、夜間・休日においても緊急の内視鏡検査・処置に対応しており、救急医療の充実にも貢献しています。

看護部概要 Nursing Department

看護部理念

よい看護・やさしい看護・こころ癒す看護

基本方針

1. 専門職業人としての科学性・倫理性・創造性に基づく看護技術を提供します。
2. 患者さまに寄り添うことができる感性を磨き、看護実践します。
3. 患者さまやご家族の目線にたった満足と安心の得られる看護を提供します。

看護部長挨拶



看護部長
野田 記世

当院は平成25年の地域医療の再編成において、地域に根ざした中核病院として生まれ変わり、10年が経とうとしております。そして、急性期から在宅までの地域連携の推進の役割を担っています。

また、当院は近江商人の発祥の地にあります。近江商人の精神である三方よしの「売り手よし、買い手よし、世間よし」が当院の医療の現場に「患者よし、職員よし、地域よし」として受け継がれていると思っています。そのため、病院職員だけでなく地域とのつながりを強くしたチーム医療の充実に努めています。

職員は充実したシミュレーターを備えたスキルラボ室でのスキルの向上が図れ、主体的な学習を支援する教育体制とキャリアラダー、キャリアアップに向けての研修等への参加できる制度など学ぶ環境を整えています。

急性期から慢性期、終末期とあらゆる病期の患者さんとご家族への方へ、専門職業人として知識・技術を提供するとともに寄り添うことができる感性を磨き、看護が実践できるよう日々努力しています。また、PNS看護方式を取り入れ、安全で質の高い看護の提供を目指しています。そして、長寿社会に入っている今、退院後も在宅医療・介護を必要とされる患者さんが安心して療養できる体制を整えるために地域・在宅との連携を図り、退院支援を実践しております。

これらは、地域に根ざした中核病院を担っているからこそできる看護だと思っております。

看護部概況

- 看護単位 —— 9単位
- 勤務体制 —— 二交替制、二交替・三交替混合
- 看護方式 —— パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS)

看護師が、安全で質の高い看護を提供することを目的にしています。チームの中で、お互いがよきパートナーとして、対等な立場で特性をいかしながらケアを行います。看護師2人が一緒になって看護を実践し、パートナーやチームメンバーで補完し協力しあい、患者さんに必要なケアを効果的に提供し、その結果と責任を共有する看護体制です。

病棟紹介 Ward Information

南7病棟（呼吸器内科）

病床数48床(うち結核病床16床) **7F**

結核の治療を目指し、確実に内服が継続できるように対面式服薬確認を取り入れています。また、限られた生活スペースの中で少しでも快適な療養生活を送って頂けるようにラジオ体操や屋上散歩などを工夫しています。一般病棟では慢性疾患を持ちながら生活する患者が多いため、入院時から退院後の生活を考えた支援が行えるように地域医療連携室および地域と連携した退院支援を行っています。

←クリスマスコンサート→



南6病棟（糖尿病・内分泌内科、消化器内科）

病床数55床 **6F**



手術や内視鏡治療を受ける急性期の患者をはじめ、化学療法や放射線療法を受ける消化器疾患、泌尿器疾患、終末期の患者の看護を行っています。痛みなど、症状の観察に努め、患者が安心して治療が受けられ、安楽に過ごせるように援助し、手術を受けられた患者が、一日一日と状態が安定し退院の日を迎えられる姿を見るととてもやりがいがあります。治療を乗り越えて患者が笑顔で退院できるよう一日でも早い回復を願い援助をしています。

←指導の場面

南5病棟（呼吸器外科、循環器内科、救急科、泌尿器科）

病床数55床 **5F**

地域包括ケア病棟は、急性期治療が終了し病状が安定した患者に対して、在宅復帰に向けて、医療、看護、リハビリを行うことを目的とした病棟です。退院に向けて患者の自宅に訪問し、家屋の状況や介護状況を確認し、安心して在宅で暮らせるようにサポートしています。その他に、糖尿病教育入院やフットケア外来を立ち上げ、白内障手術などの短期入院患者の受け入れや終末期看護にも取り組んでいます。

点滴準備→



南4病棟（整形外科、小児科、外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科）

病床数55床 **4F**



整形外科では、骨折や脊椎疾患、膝関節疾患などの術前術後の看護を行い早期の回復を目指しています。小児科では、乳幼児期から学童期・思春期の患者に安全で安心できる入院生活が提供できるようにしています。糖尿病・内分泌内科では、インスリンでの血糖コントロールや検査入院の看護を実践し、耳鼻咽喉科では、聴覚・嗅覚・味覚など感覚器の症状に合わせた日常生活援助、コミュニケーションを行い、安心・安全な看護を提供できるように取り組んでいます。

←カンファレンス

南3病棟（産婦人科、皮膚科、眼科、総合内科、呼吸器内科、脳神経内科）

病床数55床 **3F**

産科では、妊婦さんの1人ひとりのペースプランを大切に、安心と満足のごく分娩に取り組んでいます。病棟助産師が妊婦検診や保健指導に関わり妊娠から分娩、育児と継続してサポートします。婦人科や歯科口腔外科、皮膚科、眼科の手術には、クリティカルパスを多く活用し、手術を安心して受けて頂けるよう看護しています。また、消化器内科では、内視鏡治療や化学療法を受ける患者が多く、治療への支援をはじめ、日常生活援助、精神的サポートを行い、1日も早い回復を願いながら看護をしています。

授乳支援→



HCU（ハイケアユニット）

病床数6床 **2F**



ハイケアユニット(HCU:High Care Unit)とは、高度な治療や看護を必要とする患者を受け入れる病床です。緊急入院や大きな全身麻酔下の手術後等の重症患者に対して、集中治療管理を行っています。ハイケアユニットは医療機器に囲まれた特殊な環境にあるため、集中治療の厳しい現場でも笑顔と優しさを忘れず、患者と家族が安心して治療に専念していただける環境を提供できるように心がけています。

←人工呼吸器の確認

手術室

6室 **2F**

患者が安心して手術に臨めるように、担当看護師が術前訪問を行い入室から退室までの流れを説明しています。手術前に必ず外科医・麻酔科医・看護師が全員手を止めて「タイムアウト」を実施し、お互いの役割を確認、患者氏名・術式・予定手術時間などの情報を共有し手術を開始します。安全確認を徹底し、手術がスムーズに進むように看護を実践しています。

整形外科手術→



外来

1F



外来の看護スタッフは病院の顔として日々看護を実践しています。受診のため来院された全ての方に安全で安心し、信頼して頂けるよう診療の補助および療養上の世話をしています。また、在院日数も短くなり、在宅での生活をしながら通院される方も増えています。患者や家族が地域での生活を不安なく送れるよう、支援も行っています。近年、外来で行われる治療や処置が増え、日帰りで行える処置などの専門的知識と技術の向上に努め日々活動しています。

←外来受付

地域医療連携室

1F

地域の医療機関から紹介を受けたり、逆に紹介させていただく窓口として、情報交換や連絡調整を行っています。退院支援看護師とMSWが、医師、病棟看護師やコメディカルと連携し、患者・家族の意思を尊重した入退院支援を行っています。制度や社会資源を上手く活用し、その人らしい生活に戻れるよう支援を行っています。



共に考え 共に学びながら 看護師としてのキャリアアップを支援します

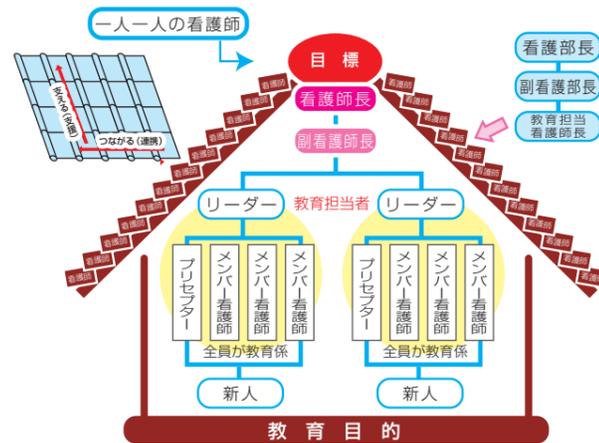
一人ひとりの看護師の個性や成長、ライフプランに応じてキャリア形成ができるように支援します。専門職業人として自律した看護職に向かってお互いに学び合い、高め合うことで成長につながります。
自らの目指す看護を実践し、リフレクションしながら乗り越える力をつけ、一歩ずつ踏み出していきましょう。



教育担当看護師長
川瀬 正裕

屋根瓦式教育での支援体制

少しずつ重なりあうことで強度が増す屋根瓦のように、チーム全体で新人を支援する教育体制です。プリセプターは新人の最も身近な相談役の役割を担っています。



PNSでの支援体制

(パートナーシップ・ナーシング・システム)

先輩看護師とパートナーとなり、日々の看護実践を行います。わからないことや困っていることはすぐに確認できるため、1人きりで行うことはなく安心して働くことができます。
また、先輩看護師も考えたり教えたりする機会が増え、共に成長していきます。患者により安全で安楽な看護を提供できます。



新人看護師の1年



国立病院機構看護職員のキャリアラダー

キャリアラダー 学習・実践の内容(一部抜粋)

	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
	看護実践に必要な基本的能力を習得する	①根拠に基づいた看護を実践する ②後輩と共に学習する	①個性を重視した看護を実践する ②看護実践者として後輩に指導的役割を果たせる	①後輩の学習を支援する ②チームリーダーとしての役割行動がとれる	専門性の発揮、管理・教育的役割モデルとなり、研究への取り組みができる
高度な専門的知識・技術を融資主体的に実践できる。	看護基準・手順に沿った看護を実践する。	根拠に基づいた看護を実践する。 研修 事故防止策	患者の個性を重視した看護を実践する。	状況に応じ、的確な判断のもと看護を実践する。	状況に応じて医療チームに働きかけ、看護を実践する。
高い倫理観に基づいた質の高い看護が提供できる。	多様な価値観・信条や生活背景をもつ人を尊重した行動がとれる。	倫理上のジレンマを表現する。 研修 アサーティブコミュニケーション 研修 倫理上のジレンマ	医療倫理・看護倫理上の問題に気づき、問題提起する。 研修 問題解決に向けた取り組み	倫理的問題の解決に向け権利擁護に向けた行動をとる。	倫理的視点に基づく看護実践の役割モデルとしての行動をとる。 研修 管理的視点の育成
多職種と協働し、看護の役割を発揮する。	看護チームの一員として自分の役割を理解する。	看護チーム内での役割を遂行する。 研修 メンバーシップ	主体的に看護チームの一員として役割を遂行する。 研修 リーダーシップ	看護チームのリーダーとして行動する。 研修 リーダーの役割	看護チームの役割モデルとして行動する。 研修 看護師長シャドー研修
病院経営に参画でき、看護マネジメントができる。	看護ケアの質の評価や改善の必要性を理解する。	看護ケアの質向上のための改善点に気づく。	看護ケアの質の評価を行い、看護の質向上に向けた改善の手立てを提案する。 研修 他職種との連携	チームの中で看護ケアの質を評価し、看護の質を高めるための行動をとる。 研修 QCC活動 研修 退院前後訪問	チームの中で看護ケアの質を評価し、改善するための方策をスタッフを巻き込んで取り組む。 研修 PDCAサイクル
後輩と共に学び合い、自律した看護職になる。	日常の看護実践の中で、支援を受けながら看護行為の振り返りを行う。	日常の看護実践の中で、看護行為の振り返りを習慣づける。	経験を日々の看護実践にいかし、自己の看護観を高める。	自己のキャリア形成について具体的な展望を持ち、主体的に自己研鑽する。	自己キャリアアンカーを確認し、役割モデルを果たす。
臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する。	看護実践における問題解決のため必要な文献検索を行う。	自己の課題を見出し文献学習する。 研修 ケーススタディ	自己の看護実践の意味づけを行う。	研究的態度を身につける。	研究的に取り組む。 研修 クリティーク

※「看護師のクリニカルラダー」(日本看護協会)との互換性に対応できる内容とし、新採用者看護職員の経験したキャリア支援を可能にしたキャリアラダー。



教育・研修 Education

ACTy ナースを 目指す教育

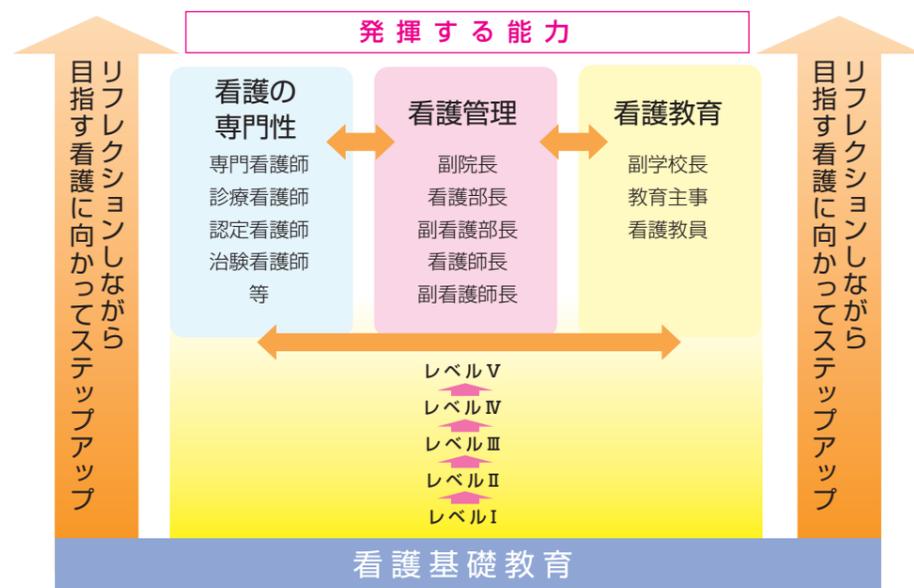
高い倫理観に基いて、「理論」と「技術」を持って「実践」し、看護を「創造」する看護師「ACTyナース」を育てます

国立病院機構の理念に沿った看護を実践できる看護師を「ACTyナース」と呼びます。ACTyのアルファベット一つひとつには、国立病院機構の役割を果たすために求められる能力が含まれており、それらを統合した力を持つ看護師の育成を目指しています。



国立病院機構のキャリアパス

(看護職員の能力開発<研修>体系図)



キャリアアップできる学びの場がたくさんあります

スキルラボ室



看護系は、フィジカルアセスメントから採血、胃管・胃腸カテーテル、BLS・ACLSシミュレータなど、約20種類のシミュレータで個々に合わせたトレーニングができます。

自己研鑽研修



スペシャリスト Specialist

看護のスペシャリストを育てます

専門性を高める、管理職を目指す、教育者になる…

あなたの目指す看護師へ、キャリアアップできる道があります。

当院では様々な資格取得を目指す人たちを積極的に支援し、多くの看護師が活躍しています。

診療看護師



診療看護師 生田 一幸

診療看護師(Nurse practitioner: NP)とは5年以上の看護師経験を経たのち大学院修士課程での医学教育を修了し、日本NP教育大学院協議会が実施するNP資格認定試験に合格した看護師です。

日本におけるNPと欧米各国で活躍しているNPは異なり、欧米各国では医師の指示を受けずに医行為を行う事が出来ますが、日本にNPは医師の包括的支持の下で、あらかじめ定められた特定行為*を行います。独立行政法人国立病院機構ではJapanese Nurse Practitioner: JNPとしてチーム医療の新たな一員として活動しています。

患者のためにより良い医療を安全に行えるよう、医師と相談しながら一定の範囲の診療行為も提供することのできる、診療と看護の能力を併せ持つ看護師です。

*特定行為

特定行為は、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる21区分38行為です。

がん薬物療法看護認定看護師



がん薬物療法看護認定看護師 平塚 久恵

がんの三大治療のひとつである薬物療法は、1度や2度で終わるものではなく長期にわたる繰り返しの治療になります。そうした治療を受ける患者とその家族が、治療内容を十分に理解し安心して治療に臨むこと、治療による副作用を最小限に抑えて安楽に日常生活を送れることを目指し、活動しています。

特定行為（栄養及び水分管理に係る薬剤投与に関連）も修了しており、がん薬物療法の専門的な知識だけでなく、フィジカルアセスメントや臨床推論の知識も活用して日々患者と関わっています。

また、病棟・外来看護師への指導や院内外での教育セミナーなど、がん薬物療法に関わる医療スタッフが質の高い看護を提供できるような活動も行っています。

緩和ケア認定看護師



緩和ケア認定看護師 宮城 暢子

緩和ケアは、終末期の患者のみがケアを必要としているわけではなく、「がんと診断されたとき」から他の治療と併用して始まります。患者や家族は、がんと診断されたとき、治療の経過、再発や転移がわかったときなどの様々な場面でつらさやストレスを感じています。その不安や悩みなどの「心のつらさ」や、治療に伴う痛みなどの「からだの辛さ」が患者やその家族の日常生活を妨げることもあります。病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさに耳を傾け、その人らしく生活できるようにサポートしていきたいと考えています。

感染管理認定看護師



感染管理認定看護師 東出 美香

病院は治療を目的とする場ですが、感染症にかかっている方や病気などにより免疫力が低下している方など、様々な人が集まる感染リスクの高い場所です。病院に関わる全ての人に起こりうる感染のリスクの低減、感染症による心身の負担を軽減することや、医療・ケア技術の向上、業務改善に取り組むことが感染管理の仕事です。そのため、医師・臨床検査技師・薬剤師・事務職と共にインフェクションコントロールチームを結成し活動しています。また看護部では、各部署に感染防止リンクナースを任命し、委員会活動を通じて、患者ケアの改善を推進しています。具体的には、

【ICTカンファレンス・ラウンド(週2回)】

- 1.看護部感染防止リンクナース会によるラウンド、ケアの質改善活動
- 2.侵襲デバイス感染、手術部位感染、耐性菌、症候群、手指衛生サーベイランスを実施(院内の感染発生率、状況を調査・分析・検討)
- 3.感染対策の推進・導入・評価、感染防止マニュアルの改訂
- 4.職員に対する教育活動、機関紙の発行(月1回)
- 5.コンサルテーション(現場での疑問、問題に関する相談)
- 6.地域の医療・福祉施設との連携を中心に活動しています。

クリティカルケア認定看護師



クリティカルケア認定看護師 生田 一幸

クリティカルケア認定看護師とは救急医療現場における病態に応じた迅速な救命技術や危機状況にある患者や急性かつ重篤な患者の重篤化回避と合併症予防に向けた全身管理など、患者へ目を向けた看護を心がけております。また突然の発症などにより、ショックを受けている家族へ向けても、家族看護として早期の介入支援を行うよう心がけております。これ以外にも院内での急変対応や一次救命処置など勉強会の講師をさせていただき、安全で安心できる看護、医療を目指し日々活動しております。院内外問わず幅広く活動してまいります。

救急看護認定看護師



救急看護認定看護師 才田 智子

救急看護では、身体的・精神的危機状態にある患者家族が対象となり、呼吸・循環管理だけでなく、患者家族を含めた精神的ケアが重要となります。救急看護認定看護師として、救命技術指導やフィジカルアセスメントに関する勉強会を行い、患者急変時に迅速かつ確実な救急蘇生法が実践できるスタッフの育成を目指しています。

手術看護認定看護師



手術看護認定看護師 湯上 幸子

手術室看護師は、患者やその家族を対象に安全で安心な手術が受けられるように手術が決まったその日から手術後も継続した看護の提供をおこなっています。手術看護認定看護師とは、手術侵襲を最小限にし、二次的合併症を予防するための安全管理(体温・体位管理、手術機材・機器の管理等)、周術期(術前・術中・術後)における継続看護が実践できるように、他職種と連携し、専門性を発揮しながら質の高い看護ケアが実践できるような調整的役割も担っています。手術室看護師とともに患者が安全で安心でき、最良の手術が受けられるような周術期看護の提供を目指して看護計画を立案して実践しています。麻酔科医が関与する手術症例では麻酔科による術前診察に同席し、入院前より患者やその家族と関わり、不安軽減や意思が尊重できるような看護を実践しています。

皮膚・排泄ケア認定看護師



皮膚・排泄ケア認定看護師 続宗 敬子

患者のQOLの維持向上を目標に、褥瘡などの創傷・ストーマ(人工肛門・人工膀胱)・失禁に伴い生じる問題に取り組んでいます。専門的な知識・技術を用いて質の高い看護を提供させていただけるよう、スタッフの指導、院内研修会の開催を行っています。また、入院から退院後の生活を安心して送っていただけるよう、専門外来の開催や患者会の参加など幅広く活動しています。

【活動内容】

- 1.褥瘡対策:多職種と共に褥瘡対策チームを結成し、週1回の褥瘡ラウンドを通して褥瘡治療環境の整備や発生予防に努めています。
- 2.フットケア外来:医師と連携し、糖尿病性足病変の予防・管理を行っています。
- 3.ストーマケア:ストーマを造設される方に関わり、セルフケアの指導・管理を行っています。個別性を重視し、手術前から関わりを持ちケアしています。トラブルに対しては患者各々に応じた症状の改善に努め、スタッフ、家族からの相談にも応じています。退院後の相談窓口としてストーマ外来を開設しています。
- 4.失禁ケア:失禁に伴う皮膚のトラブルに対する相談に応じています。また、スキンケア方法、おむつに関する相談にも対応しています。

皮膚・排泄ケア認定看護師 湯室 順子

皮膚・排泄ケア認定看護師は、①褥瘡などの創傷管理およびストーマ、失禁等の排泄管理

②患者・家族の自己管理およびセルフケア支援をおこなっています。

ふだん活動していることは、褥瘡予防対策を行っています。褥瘡が発生するリスク患者に体圧分散機能のあるマットレスの選択や、体のポジショニングについて行っています。また人工肛門や人工膀胱により排泄経路が変更となった患者のケアや、日常生活がその人らしく過ごせるように支援しています。さらに、排泄物からくるスキントラブルを予防する取り組みも行っています。例えば、オムツの選択や患者に応じたオムツの装着方法、失禁からくるスキントラブル予防について、スタッフ指導を行っています。



治験コーディネーター (CRC)



治験コーディネーター(CRC) 井上 睦実

製薬会社が新薬を開発するとき、その開発の最終段階で人体への有効性と安全性を確認する「臨床試験(=治験)」をおこないます。その治験の調整役となり、治験のコーディネートをを行うのが、治験コーディネーターです。臨床開発モニター(CRA)や治験を実施する担当医師と治験事務局、医事課、薬剤部、検査部、看護部などの各関係部署やその医療スタッフらと協力して治験を進めていき、被験者となる患者をサポートします。当院のCRCは、看護師1名・薬剤師2名で構成されています。

【主な業務内容】

- 患者への治験内容の説明
- 患者の精神面でのサポート
- 治験を行う医師の業務支援
- 治験のスケジュール調整
- 資料・報告書の作成

消化器内視鏡技師

消化器内視鏡技師4名

内視鏡センターでは専門性の高い看護を学べます。検査や治療という限られた時間の中でもやさしさと思いやりを持ち合わせた看護を心掛け「ここで検査をしてよかった」と思ってもらえる様な看護を目指しています。

チーム医療の要としての活躍 Team Nursing

多職種がそれぞれの専門性を発揮しながら連携・協働し、患者にとって最善の医療を提供します

医療安全ラウンド

医療安全管理室では、医療現場で働くすべてのスタッフが医療安全に関心を持ち、患者だけでなくスタッフの安全も守るために各部署をラウンドし、スタッフと共に考え安全な医療が提供できるように努めています。

医療安全管理係長 林 祐希

患者中心で質の高い、安全な医療を提供するために、研修の開催や、各部署のカンファレンスに参加するなど病院職員が医療安全の必要性・重要性を認識し、安全な医療が遂行できる体制・環境を整えるために取り組んでいます。



医療安全ラウンド

医療安全ラウンド



褥瘡対策チーム

褥瘡対策チーム

褥瘡対策チームは、医師・看護師・薬剤師・栄養士が協力し、ラウンドの中で患者の褥瘡予防・褥瘡ケアや指導を中心に行っています。

皮膚・排泄ケア認定看護師 続宗 敬子

褥瘡などの予防や治療、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)ケア、失禁に伴う皮膚障害や排泄管理を中心に活動を行なっています。認定看護師として専門的な知識・技術をもって患者・家族に関わることができ、大変やりがいを感じています。



感染対策チーム：ICT

ICTは定期的な病棟ラウンドや感染症患者への対応などを行う病院感染対策チームです。感染管理は患者や家族・訪問者や医療従事者など病院に来られる全ての人を感染から守る活動です。多職種で力を合わせICTチームは院内感染防止に向け取り組んでいます。

感染管理認定看護師 東出 美香

患者や家族、職員などを感染から守る活動を行っています。安全な療養環境を提供するために、感染予防に必要な知識の教育、研修、コンサルテーション、サーベイランスなどを通し、日々感染管理活動を行っています。



緩和ケアチーム

緩和ケアチーム



術後疼痛管理チーム

術後疼痛管理チーム



フットケア外来

フットケア外来



栄養サポートチーム：NST

栄養サポートチーム

緩和ケアチーム

患者と家族のQOL向上のために、緩和ケアに関する専門的な知識や技術により、患者と家族へのケアを行うチームです。心身ともに万全な状態で治療にのぞみ、その人らしい生活を送ることができるよう苦痛緩和が図れるサポートをしています。

緩和ケア認定看護師 宮城 暢子

がんと診断され治療を受ける様々な場面で患者と家族は身体的・精神的苦痛を感じています。患者がその人らしい生活が送れるように身体的・精神的苦痛に対処し、患者と家族の思いに寄り添えるケアを行なっています。



フットケア外来

糖尿病患者が、在宅で安全に生活できるようにフットケア外来を毎週月曜日に行っています。主治医から依頼のあった患者に、「糖尿病患者様 足 チェックシート」を用い、足の観察を行います。その後、足浴を行いながら、在宅での生活状況の情報収集を行い、生活全般において、課題を共に考え、日常生活のフットケアについて指導を行っていきます。

糖尿病療養指導士 大阪 麻佑

糖尿病患者が地域で安心して生活できるよう多職種と協力し、患者や家族への療養指導を行っています。長く付き合っていく病気であるため、様々なライフスタイルの中で継続して療養できる方法を患者と一緒に考えています。フットケア外来では患者の足を守るため処置や自宅でもケアが行えるよう指導を行っています。



栄養サポートチーム：NST

患者に最良の栄養療法を提供するために、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士など様々な職種で構成されたチームです。近い存在である看護師だけでなく各職種の専門的な知識・技術を活用し、栄養管理に努めています。

NST専任看護師 加藤 智恵子

入院患者の、食べたくても食べられない、何らかの原因で栄養状態が悪くなっている患者に対して、一番近い存在として患者の立場になって考え、少しでも状態が改善できるようチームの中で活動しています。



処遇・福利厚生 Welfare

頑張るあなたのワーク・ライフ・バランスを応援します

休暇制度や福利厚生が充実しています。

男女問わず、結婚、出産、育児などのライフイベントを経ても長く働き続けられるよう、

院内保育園や育児サポート体制を整えています。

また、学びを支援する研修制度を設けたり、定期的な健康診断を実施しており、

仕事も自分の人生も充実させたいあなたを、私たちは応援しています。

処遇

- 勤務時間：週38時間45分 4週155時間 4週8休
- 休暇：有給休暇、特別休暇（病気休暇、看護休暇等）、介護休業制度あり
- 給与：独立行政法人国立病院機構給与規定による昇給年1回、業績手当、夜間看護手当、通勤手当、住居手当等

奨学金制度

- 対象：卒業後、東近江総合医療センターへの就職を希望する学生の方に対し、奨学金を貸与し、就学を支援しています。
- 貸与限度額と貸与期間：貸与限度額：年間72万円
- 貸与期間：卒業までの最短就学年数により異なります。

職員の研修制度

病院運営上必要な各種認定資格や免許の取得、知識や技術の習得のために必要な研修などではその費用（受講料や参加費）について、一部支給される制度があります。

職員の健康管理

- メンタルヘルスチェック
- 定期健康診断、特別健康診断の実施
- インフルエンザワクチン、感染症等のワクチンの接種
- 産業医、安全衛生委員会の設置



職員宿舎

- ワンルームタイプ
- エアコン、コンロ付き
- 4,500円/月 + 駐車料金、共益費



子育て支援

院内保育所

- 24時間保育
- 病児保育



子育てをしながら勤務しています。病院敷地内に保育所があるため、安心して働くことができます。子供の成長を見守りながら、やりがいを感じつつキャリアアップに努めています。（ママさん看護師）



● 出産にかかわる休暇・休業

- 産前休暇：出産予定日の6週間前から
- 産後休暇：出産日の翌日から8週間
- 男性職員：妻の出産にかかる入院や子の養育のための休暇あり
- 育児休業：女性・男性職員共に子供が3歳まで取得可能

● 育児にかかわる勤務軽減

- 保育時間：1歳までは1日2回、それぞれ30分取得
- 育児時間：小学校に入学するまで1日2時間以内で取得
- 子の看護休暇：小学校入学前の子の看護する場合1年で5日取得

サークル活動

- ソフトボール部
- 登山部 ほか



ソフトボール部



登山部

楽しみながらいい汗をかいています！

周辺環境

当院は大阪・名古屋のほぼ中央にあり、高速道路による交通の便の良さより、東近江市周辺には数々の大企業の工場などが誘致され発展しています。自然や歴史に恵まれた地域の中で、アウトドアライフを満喫し、オンとオフを切り替えた充実した生活を送れます。



琵琶湖の夕景



ブルームの丘



湖東三山



ヒトミワイナリー



三井アウトレットパーク



永源寺温泉 八風の湯